

厚木支部 気楽な散策会#2 開催報告

7月27日(土)、厚木支部主催の気楽な散策会#2を実施しました。一年ぶりとなる気楽な散策会#2、今回のコースは、NHK のブラタモリでも取り上げられた小田原用水をぶらり旅、当日は台風6号が紀伊半島に上陸し、天候が危ぶまれましたが、6月30日を荒天のため中止していたので、天気予報の”午後からの回復”を信じて、横山厚木支部長の英断により朝9時に決行を決定し実施致しました。

旅のスタートは、小田原から箱根登山鉄道に乗り、次の駅である箱根板橋駅です。午後1時15分、総勢6名、いざ出発です。何と心配していた天候も晴れて、気温がぐんぐん上がります。今度は熱中症が心配になるぐらいです。国道1号を箱根に向かって程なく、小田急線の高架をくぐると、上板橋交差点、ここを早川の川岸に向かうと最初の目的地、小田原用水の取水口です。小田原用水は16世紀のはじめ小田原北条氏の三代氏康の頃に完成した飲用水、防火用水などの多目的用水として整備された上水です。河辺には木陰があり、川面からの風が、ここまでのガラガラした暑さを、ふと、柔らかくしてくれました。次は用水沿に歩き、板橋地藏堂です。この地藏堂は関東では珍しい禅宗三宗の一つ黄檗宗(おうばくしゅう)の黄檗建築様式です。広い玉砂利の境内



箱根板橋駅をさあ出発です。



早川にある用水取り入れ口



板橋地藏堂

に2本の大きな樺、ここの木陰も気持ち良かった。そして、次に訪れたのは、すぐ隣の常光寺、浄土宗のお寺で江戸時代になってからのものです。ここを抜けると、家屋の北裏側を流れる用水に沿って細い路地を小田原城を目指して東へ。

この路地の北側には丘の斜面にお寺いくつもあります。北条氏の時代、そして、江戸時代の小田原藩の時代と、武士がそして、町民が信心深く建立していったんだなあと、散策の途中話題となりました。細い用水路はほんのわずかな傾斜があり流れが絶えないようで、きれいな水が流れていました。とはいえ、日差しは強く、給水を忘れずに、つぎのスポット、板橋見附跡を目指します。見附は防御施設のことです。ここは、小田原の西の守り、東には江戸口見附があったそうです。これを江戸に取り入れたのが赤坂見附などだそうです。



家屋の裏を流れる用水路

そして、用水には別れを告げ、国道1号を上り、最後の難



天神社への階段

所？天神山、皆さん健脚でここまでは元気いっぱいでしたが、この天神社への階段ではちょっと、疲れたので、境内で一休み、ちょっと小高いここからは早川港の方角は見渡せます。一息ついたところで天神山の頂上を超え、いざゴールの小田原城へ。頂上から相模湾、真鶴半島の素晴らしい眺めを楽しんでから、ちょっと下ると左手、大きな木々の間に小田原城の天守閣がくっきりと見えました。下りの右手は、清閑亭です。明治時代の



の黒田侯爵の別邸で、数寄屋風の作りの家屋で箱根から伸びてきた尾根の突端の南斜面にあり、海から山へと眺めが抜群です。建物は無料で開放されています。中に入り2階に上がると、窓が開け放たれた廊下からの眺めは最高です。そして、海から駆け上がってきて、吹き抜けていく風、畳の上で横になれば、何とも心地良いひと時でした。

清閑亭を後にして、最後は、二宮尊徳を祀っている尊徳神社で今回の散策会の無事を感謝して、ゴールの小田原城天守閣に到着。3. 2km、2時間半の気ままな散策でした。皆さんご苦労様でした。



旅の終わりは、小田原駅の近くで、小田原の美味しいお魚と冷たいビールで、今日の打ち上げ会をしました。今回の企画は何の変哲もない町の路地散策を選んできましたが、参加していただいた、皆さんから、普段は小田原を訪れても、又は住んでいても見逃してしまう発見があって、とても良かったと言っただき、企画者冥利につきるものでした。打ち上げ会では、工学部山岳部の仙ノ倉荘存続の話、横浜支部のカラオケ大会のお誘い、アメリカのルート66の旧道を2週間かけて走り、伝説のバクダッドカフェに寄って青春の夢を叶えられたお話、そして、次の気楽な散策会#3の作戦と話は尽きないのです。

参加していただいた方々

35C 望月様(横浜支部)

44M 植竹様(横浜支部)

46S 飯島様(横浜支部)

49P 田辺様(平塚支部)

49E 横山様(厚木支部長)

報告 石崎(厚木支部 企画・幹事 53M)